

# 「社会参画学習」論に基づく日本の人口問題の授業開発 ～東神楽町から人口問題を考察する～

中 村 雅 美（東神楽町立東神楽中学校）

## 1 単元案「日本の人口分布と課題」（4時間扱い）

### 2 単元について

#### 教材観

中学2年生の地理的分野では、「日本の地域構成」を学習した後「世界と比べた日本の地域的特色」として「自然環境」「人口」「資源・エネルギーと産業」「地域間の結び付き」の4項目について、日本の地域的特色を踏まえて学習していく。「人口」については、世界的には「人口爆発」といわれるように発展途上国を中心に急激な人口増加が続いている一方、日本国内では、人口減少が始まっている。北海道はこれまでも、多くの若者が進学や就職などに伴って首都圏に転出する傾向が続いており、出生率の低下も相まって、全国を上回る速さで人口が減少し、高齢化が進んでいる。人口減少社会というこれまでの日本では前例のない時代を生きていくことになる生徒たちに、過密と過疎、少子化と高齢化の問題点を理解させ、また、人口減少社会が自分たちの生活にどのような影響を与えるかを理解させたい。更には自分たちが現在生活する東神楽町が今後も存続していくということを善とした上で、そのためには自分たちはどうしていくことができるのかを、公―共―商―私という社会を構成する役割を踏まえた上で考えさせていきたい。

#### 生徒観

学年全体としては基本的な学力は高く、1年時から様々な教科で問題解決型の学習にも取り組んでおり、学校評価のアンケートの結果からも課題解決に意欲的に取り組む生徒が多いといえる。また、本校の所在地である東神楽町は十数年前から宅地開発が進んでおり、現在も旭川市のベットタウンとして発展を続けている。生徒も親の代からこの地域に住む生徒と住宅の建設に伴い近隣から移転している生徒が混在している。転入生も多く、仕事や生活環境を考え人々が住む場所を決めていくという事柄について、理解しやすい環境にあるといえる。

#### 指導観

東神楽町は2013年には人口1万人を突破し、道内屈指の人口増加率を誇っている。また、子育て世代の転入者が多いのも特徴であり、それに伴い生徒数も増加している。昨年度は学級増により教室が不足し、新校舎の増築を行っており、現在各学年4学級の12学級となっている。また、国立社会保障・人口問題研究所「日本地域別将来推計人口」（2013）のデータでは若年女性人口減少率が北海道の全ての市町村の中で最も少ないという予想が出ている。このことから、生徒は日常生活の中で少子化や高齢化について実感する機会というのは少ないと考えられる。しかし同データでは、2040年の時点で北海道では東神楽町を含めて、全ての地方自治体で若年女性人口は減少するという結果が出てお

り、現状のままでいけば東神楽町も人口減少は避けられない。現在中学1年生である多くの生徒らも、5年後の高校卒業時には、進学や就職で東神楽町を離れ都市部で生活することが考えられる。現在、東神楽町で生活する自分たちがそれぞれの価値観や事情により、どこに住み生活を営んでいくかという選択の結果が、地域の過疎化や密接化に関係し、人口減少という事態は様々な場面で自分たちの生活に影響を及ぼすということを理解させたい。このことを踏まえた上で公・共・商・私というそれぞれの立場の人たちが地域を存続させるためにできることを考察させることで、様々な要因から引き起こされる人口問題について、より多角的に現実的に捉えさせていきたい。

### 3 単元の目標

日本では2008年頃を境として人口減少が始まっている。北海道は更に全国を上回る速さで減少を続けている。人口減少が人々の暮らしに与える影響を理解した上で、公・共・商・私の立場で何ができるのかを考えることができる。

### 4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
先進国と発展途上国、日本の都市部と郡部という空間を軸とした人口変化、また、これまでと現在とこれからという時間を軸としたの人口変化について関心を持ち、主体的に考察することができる。	人口減少社会の影響をできるだけ小さくするために、公・共・商・私のそれぞれの立場でできることを考えることができる。	人口ピラミッドの意味を理解し、日本の人口構成の特色について読み取ることができる。	北海道の郡部ではなぜ転入よりも転出が多い社会減となるのかを理解し、人口減少によってどのような事態が考えられるのか理解できる。

### 5 指導と評価計画

時	学習活動・学習内容 重要語句	学習内容定着のための取り組み	評価規準 及び方法
1	世界の人口の変化について予想しよう	・3分テスト	
	○世界の人口の変化についてグラフ上でどのように変化するかを予想した上で、実際の変化	・人口変化のグラフの直写	

	<p>をグラフを直写することで確認する。</p> <p>○人口密度と人口変化は地域によって大きく異なることを理解する。</p> <p>○人口ピラミッドから、その国や地域の人口構成の特色を読み取ったり、説明したりする。</p> <p>○20年後、自分はどこで生活をしていると思うかについてのアンケートに答える。</p> <p>・人口爆発 ・高齢社会 ・少子化</p>	<p>・インターネットサイト「世界の人口」の視聴</p> <p>・アンケート</p>	<p>〈関①〉 観察</p> <p>〈資①〉 学習プリント</p>
2	<p>日本の少子化・高齢化，人口減少によって，今度どのようなことが問題となってくるか考えよう。</p> <p>○日本の人口分布について，三大都市圏などの過密地域と過疎地域がみられることを理解する。</p> <p>○日本の少子化と高齢化，人口減少によって，今後予想される課題について考えることができる。</p> <p>○北海道の人口減少の状況について理解する（自然減と社会減）。</p> <p>・三大都市圏 ・地方中枢都市 ・過疎地域 ・過密地域 ・少子化 ・高齢化 ・持続可能な社会</p>	<p>・3分テスト</p> <p>・インターネットから「日本のこども人口時計」の視聴</p> <p>・国土交通省北海道開発局資料</p> <p>・広報誌「ほっかいどう」</p>	<p>〈関①〉 観察</p> <p>〈知①〉 発言・ノート</p>
3	<p>東神楽町が今後も持続していくために，公・共・商・私の立場でできることを考えよう。</p> <p>○1次で行ったアンケート結果から，住む場所を決める要素として何があるのかを考える。（仕事・進学・レジャー等）</p> <p>○東神楽町が今後も持続していくため，社会減を抑制するために，公・共・商・私でできることを考える。（個→全体）</p> <p>○人口が増加している自治体の事例を紹介する。</p>	<p>・3分テスト</p> <p>・1次のアンケートの結果</p> <p>・公・共・商・私について説明する</p>	<p>〈思①〉 学習プリント</p>
4	<p>東神楽町が今後も持続していくために，公・共・商・私の立場でできることを妥当性</p>		

<p>を考えながら再考してみよう。</p>	<p>・ 1次で使用したアンケート用紙</p>	<p>〈思①〉 学習プリント</p>
<p>○前事の「公・共・商・私でできること」の案について、改めて、できることとできないことの吟味を行う（班で）。 ○各班の話し合いの内容を全体で共有する。 ○役場の方から案の妥当性についてコメントをいただく。 ○自分たちの1次でのアンケートへの回答の再考と授業の感想を記述する。</p>		

## 6 本時の学習（4時間扱い 4／4）

### （1）目 標

- ・ 東神楽町が今後も持続していくために、公・共・商・私のそれぞれの立場でできることを妥当性を踏まえた上で検討することができる。

### （2）展 開

生徒の活動	教師の活動	評価規準
<p>○前時で話し合った結果を確認する。</p>	<p>・ 前時で出た「人口の社会減を抑制するために公・共、商・私でできること」の案を提示する。</p>	
<p>指示① それぞれの案について、まず、それぞれの立場で行うことが妥当なのか、また、それは実際に可能だと思うかについて判断をしてほしいと思います。</p>		
<p>○それぞれの立場で行うことが妥当なのか、またそれは実際には可能だと思うかについて個々人で判断する。</p>	<p>・ いくつかの内容について、実際にこのように考え判断していくという例を説明する。 (例) 公—若者が集まるように大学を誘致する。 これは公である市町村がすべきことなのか。公である市町村でこのことを行うことが可能なのか。</p>	
<p>指示② 班として、それぞれの案について、それぞれの立場で行うことが妥当なの</p>		

か、また実際に可能だと思うかについて判断をしてほしいと思います。

○班になり、それぞれの案について判断していく。	・班長を中心にして、話し合いが行えるよう、話し合いのルールについて確認する。	・東神楽町が今後も持続していくために、それぞれの立場でできることを妥当性を踏まえた上で検討することができる。
○班での話し合いの結果を見える化し、全体で共有する。	・各班の判断が割れている場合、それぞれの考えについて確認していき、学級の意見として1つにまとめていく。	
○役場の方からコメントをいただく。	○話合った結果について、案の内容や妥当性について役場の方にコメントをお願いする。	

指示③ 以前にみなさんに書いてもらったアンケートを再度行います。以前と変更があった人はその理由、ない人はその理由を書いてください。また、これまでの学習を通じての感想を書いてください。

- |             |              |  |
|-------------|--------------|--|
| ○プリントに記述する。 | ○プリントに記述させる。 |  |
|-------------|--------------|--|